

生き残りに設備投資は欠かせない

— 約2ヵ月、3回に分けて工場をリフォーム

日進モータース商会
(三重県桑名市)

50年以上の歴史を持ち、本社・マイカーセンター、車検センター、钣金塗装工場と3拠点を構える日進モータース商会(川北宗弘社長)は、このほど約2,500万円をかけて钣金塗装工場をリフォームした。リフォームの内容や今後の展望について聞いた。



川北宗弘社長(左から3人目)、西田武史専務(右端)と钣金塗装スタッフ

リフォームで工場の信頼強化

2012年10月に特定化学物質障害予防規則等の改正があり、エチルベンゼンが特定化学物質に指定された。塗装業務の規制がより一層厳しくなっていく改正だが、同社は水性塗料を使用しており、プッシュプル型の塗装ブースもあるため対応はそれほど困難ではない。それでも「今後さらにコンプライアンスが問われ、ユーザーの目も厳しくなっていく」と判断し、川北社長は設備の入れ替えを決意。ただ設備を良くするだけでなく作業効率も高めようと考え、工場全体をリフォームすることにした。

リフォーム期間は約2ヵ月。通常業務を止めることがないよう、3回に分けて実施した。「リフォーム期間中、多少通常業務に影響はあったものの、どうしても自社で対応できない場合は

外注に出すことで、仕事量をほとんど減らすことなく対応できた。

作業スペースを考えてレイアウト決定

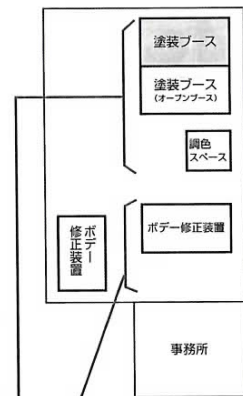
まずは、ほとんど稼働していなかった事務所スペースに、調色室と部品庫を設置。スタッフの部品管理に関する意識も高まった。

次に钣金スペースへ、新たに塗装ブースと乾燥機器を設置。スペースを有効に活用でき、スムーズに乾燥できるよう、天吊り式の遠赤外線ヒーターを採用した。作業スペースを最大限確保できるよう、給気ユニットを塗装ブースの上に設置している。

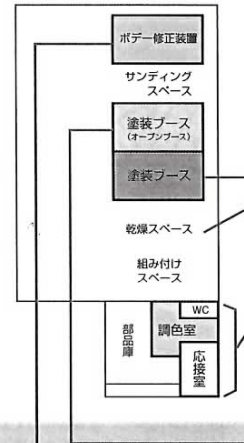
最後に古い塗装ブースを撤去、開放型ブースを移設し、钣金スペースを新設。ただし、床(レール)は新しくしたが、ボデー修正装置自体は入れ替えなかった。「全損になるケースが増え

工場レイアウト

<リフォーム前>



<リフォーム後>



Before



たこともあり、ボデー修正装置で修理する必要がある案件は月に1台程度。この程度であれば外注に出した方が効率が良い。社内でのボデー修正は少し引けるだけでよく、大型のボデー修正装置は必要ない」。

さらなる売り上げアップを目指す

リフォームと並行して仕事のやり方

も一新。以前は钣金と塗装で分けるのではなく、1人が1台を最後まで担当していたが、作業効率を優先させるため、2チームに分けて钣金と塗装に作業させた。「途中で他のスタッフに交代するので責任感が高まったし、ロスなく仕事を処理できるため作業効率も良くなった。仕事の配分をもっと改善すればさらに早くなるはず」。また、仕事を固定して作業がマンネリ化してしまわないよう、担当作業は1ヵ月ご

とに交代させている。「今後はさらに工場間の差別化が進んでいくが、当然生き残れる方に入らなければならない。そのためには教育と設備投資は惜しんではならない」。同社の钣金塗装部門の売り上げは約7,500万円。今回のリフォームをきっかけに1億円まで伸ばし、会社全体では売り上げ5億円を目指していく。(中井崇文)

After

給気ユニットを塗装ブースの上に設置することでスペースを有効活用

縦の空間を活かすため乾燥機は天吊り式を採用

新たに新設した部品庫と調色室

床式修正装置なのでボデー修正作業以外の時は钣金スペースとして活用

塗装作業時以外は作業スペースとして使用している開放型ブース